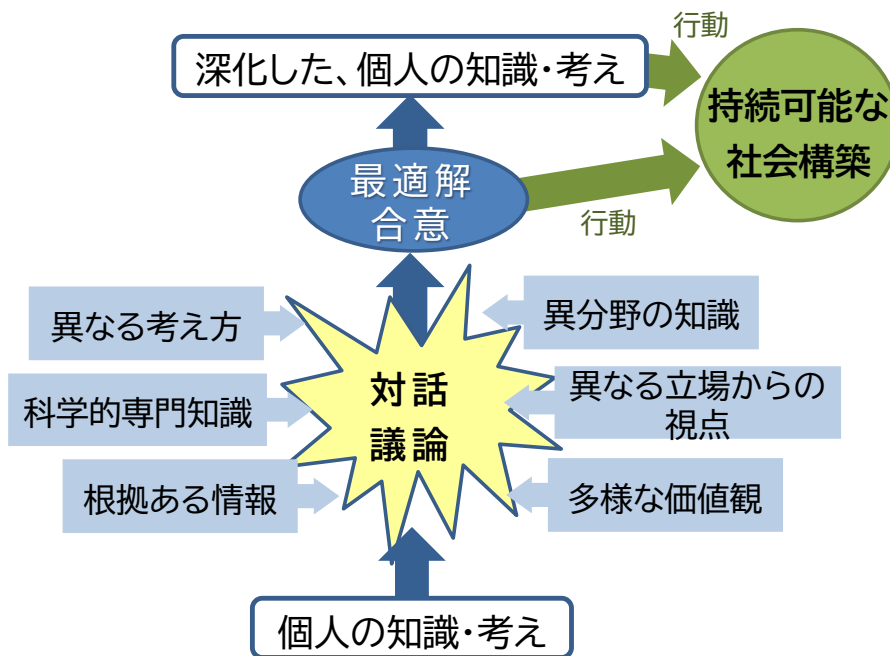


ティーチング・ポートフォリオ

東京都市大学 教育開発機構

伊藤 通子

作成日 2021年11月14日



※ 本 TP は、誰にも見やすいユニバーサルフォント(UD)を使って作成しました。

【責務】

東京都市大学では創立 100 周年を迎える 2029 年を視野に入れた中長期的ビジョン「東京都市大学アクションプラン」に基づき、各種施策が進んでいる。そのような背景のもと、私は、教育開発機構 副機構長として、副学長（教育担当）である機構長を補佐し、以下の教育施策の、企画・実施に携わっている。

- ・ニューズレター副編集員長
- ・FD 推進センター長
 - ： 学生が教育目標を達成することを支援するための授業設計や教育力向上に関する情報と研鑽の機会を提供
- ・SD PBL デザイン研究会への支援
 - ： SD PBL (1) → (3) が軌道に乗るための知恵や工夫を関係者間で創出
- ・知識集約型人材育成事業への支援
 - ： SD PBL との関連、有機的なつながり、一貫性の構築
- ・入学前ワークショップのデザインと実施
 - ： 初年次教育ウォーミングアップセミナーとしての再設計
- ・都市大 DP 標準ルーブリックへの改変と、TCU-FORCE とのリンクの構築
 - ： 都市大力の定義と評価項目、評価基準、教学マネジメントへの位置づけ
- ・授業のアクティブ・ラーニング化への支援
 - ： 様々な授業に対する、コースデザインやクラスデザイン、進め方の支援
- ・社会人大学院の授業
 - ： SDGs 特論の充実

【理念】

(1) 豊かな学びとは

私たちの人生は、常に生き方を問いつける旅のようなものではないだろうか。自分はどのような自分でありたいのか、どのような社会に生きていきたいのか、そのために状況にどのように働きかけ、どのように変わることを望むのか、自分は何をすべきなのか…。

問いつけるその原動力が、「学び」であると考え。ありがたい自分や望ましい社会に一步近づいたと実感する時、私たちは自分の成長と共に生きる喜びを感じ、それをもたらした豊かな学びの存在もまた実感することができるのではないだろうか。

私たちは常にいくつかの現実的な「問題」と対峙しながら生きている。問題解決は、前述の豊かな学びへの引き金となることが多い。しかし、何らかの制限や規範等に縛られたり常識や思い込みに支配されたりして、「問題」がなかったようにやり過ごしてしまうことがある。また、どこかに生きにくさを感じながらも「問題」に向き合わず放棄してしまうことも多い。

自分にはできないという思い込みのような内的な抑圧や、社会の中での理不尽な扱われ方のような外的な抑圧などから自分を解き放つ術を見つけ、目指すものが見え、目の前の「問題」を自分事

として捉えることができた時、その「問題解決」は、人を無我夢中にして没頭させ、満足する答えを得ようとして異なる視点や新しい情報を自ずと求めさせるような力をもつ。困難にも自ら挑戦させるような力をもつ。そのような数多くの小さな「現実の問題」にきちんと向き合い、その解決に一つひとつ丁寧に未来志向で取り組むプロセスで人は社会の一員として成長し、その経験が豊かな学びへと昇華していくのだと考える。

豊かな学びとは、自分自身はもちろん他者にも、また、今の時代も未来にも社会の一員として責任をもちながら、物心両面が充足した「生き方を獲得する営み」のことを指す。その営みは、一人ひとりの目標に基づき様々なプロセスと方法をとるが、ある時点で全容が捉えられても次の瞬間には見えなくなるようなものに思える。そのような多様性や揺らぎと共に豊かな学びがあり、自分の中のたくさんの問いに安心して向き合うことができる環境の下でもたらされる営みだと考える。自分らしく生きるための、一生涯続く営みだと思う。

(2) 学校と教師

教師は、そのような「豊かな学び」をもたらすことに存在意義がある。

学校は、人生の始まりの期間を過ごす「豊かな学びの場」となり、人生のほとんどを過ごす卒業後の世界とシームレスにつながっているべきだろう。一生涯自立して学び続けるための、ゆっくりと安心して準備ができる機能を持つ場として充実させなくてはならない。

教師は、そのような場をつくり、場を守り、準備を支援する力をもたなくてはならない。

すなわち、そこで学ぶ一人ひとりが、自ら「問い」を見出せるように、それに勇気をもって挑めるように、自分自身の秘められた可能性に気付くように、周囲に働きかける方法を見つけるように、立ち位置を自ら築くことによって唯一無二の存在としての自分を慈しめるように、共に社会を構成する他者の尊厳をも認められるように、人々の学びに伴走し支援する役割だ。

私は、教師が、一人ひとりの「問い」を呼び覚まし、生涯 灯し続ける学びの種火を点け、自立した学び手を育てる「豊かな学びの支援者」となることに微力ながら寄与したいと考えている。

【方法】

授業のアクティブ・ラーニング化への支援

授業を組み立てる際に、教員や学生の「問い」を大切にして、授業のデザインを支援する。

教育に携わる教師も学生も、自分らしく生きるための「一生涯続く営みとしての学び」が起こるような支援を目指す。

方法① SD PBL の充実

大学の教育改革の方策として導入を進め、SD PBL と名付けた全学的導入科目となった。各学科 2 名が参加する SD PBL デザイン研究会も組織され、教育開発室が運営している。このような機会を利用して PBL や ESD について理解と活用を促している。導入そのものが目的ではなく、学生も教員も学び合える場となることが目的である。

方法② 授業のデザイン

伝統的な「内容→方法→知識の定着の確認→評価」という順ではなく、「学生の状況の把握→当該授業の学習成果目標の確認・設定と担当教員が実現したいこと→内容の設定と方法の選定→組み立て→学生へのフィードバックとしての評価方法の埋め込み→学習成果の確認→評価」という授業デザインを広める。

また、都市大のFDの評価枠組みを整備することで、教員が自分の授業について、全学的な教育理念の下、学位認定プログラムとしてのカリキュラムマップ内の位置づけ、他授業との関連、学位修得に向けた学修成果獲得のレベルや内容を確認して、当該授業の内容や教授法、学習成果の具体的な評価のあり方を検討する。

方法③ 教員の特性や専門分野に応じた教授方法の勧め

支援の際は、担当教員の教育理念や学生に付けたい能力を重視して、具体的にどのような教授戦略が良いかについて、担当教員の特性を考慮しながら一緒に考える。

方法④ 指導に必要な理論と身につけるべきスキルを具体的に紹介する

様々なアクティブ・ラーニングにおける指導者の役割として、モデリング、コーチング、ファシリテーター、スーパーバイザーなどの役割を実施する。

【成果】

FD 推進センター

- ・オンラインによる伝達型 FD 7 回開催(全 FD の参加者延べ数は約 2400 名)
- ・小規模学び合い型(相互研修型 FD) 24 回開催(約 520 名参加/2400 名)
- ・オンライン FD 駆け込み寺(429 名登録、8 チャンネル開設、アクティブユーザー50-70%以上)
- ・SD PBL デザイン研究会 202 年度 5 回開催

大学教育学会など学協会の発表や寄稿、

東京都教職員研修、他大学の FD 講師、他機関での研修講師や審査委員、アドバイザーなど

入学前ワークショップ実施 約 800 名参加

教育開発機構ニュースレターでの発信

【目標】

2021 年度

- ・SD PBL の実質化、SD PBL(3)のデザイン方針と運用方法
- ・ティーチング・ポートフォリオの仕組み構築、ディプロマ・ポリシー標準ルーブリックの作成と TCU-FORCE の整合の整備、など、教学マネジメントの仕組みの構築を目的とする FD の企画実施
- ・FD の定番メニュー化への一年目としての実績

・多くの教職員のFDへの参加・参画

2022年度

上記に加えて、教育開発機構の長期ビジョン策定を始める

【添付資料】

- ・SDGs 特論シラバス、世田谷コンソーシアムでの発表資料
- ・オンライン授業のための、授業パターンと機器接続のガイドブック (WebClass に UP 済)
- ・SD PBL デザイン研究会の資料「授業のデザイン方法」 (WebClass に UP 済)
- ・2020 年度実施のFDの資料や動画 (WebClass に UP 済)
- ・都市大評価枠組みの案
- ・SD PBL(3)モデルコースデザイン、学生用グラフィックシラバス
- ・発表

論文 「遠隔講義に対応するための教員間学び合い環境の構築」、コンピュータ&エデュケーション 50 号

「「学習システム・パラダイム」への転換における PEPA の有効性 -東京都市大学のケーススタディーから-」、大学教育学会誌 2021年 43(1)

口頭 「コロナ禍におけるオンライン プラットフォームを利用した FD の取り組み」大学教育研究フォーラム in 京都大学

「「学習システム・パラダイム」への転換における PEPA の有効性 -東京都市大学のケーススタディーから-」、大学教育学会 2020 年度 課題研究集会

「The Effects of Interdisciplinary Team Teaching on PBL」
PBL2021 in Aalborg University

論説 「Beyond コロナの都市大教育は、議論と実践の積み重ねの先に」、2020 年度 第 31 号 東京都市大学教育年報

「コロナ禍における都市大教育の取り組み」、東京都市大学 校友会会報「都市」

「SDGs 時代の学び方~北欧の「PBL とグリーンイノベーション」を手掛かりに~」共生科学 (Journal of Kyosei Studies) 第 11 巻. 2020

他